

# 麗澤大学道徳科学教育センター主催 特別ワークショップ

## 「エンパワーメント教育で学校を変える！」

日時：8月20日（火） 午後1時～4時まで

場所：麗澤大学 2508 教室

会費：3,000 円 通訳がつきます。

講師：マービン・バーコビッツ教授  
ミズーリ大学 人格と市民性センター長  
エンパワーメント教育学



バーコビッツ教授は、人格教育（Character Education）を推進するアメリカの第一人者で、カナダ、ドイツ、スイス、スコットランド、スペイン、台湾などでのワークショップ経験も豊富な国際的に有名な教育学者です。教授は人格教育を効果的に展開する5つの原理を明らかにしています。それらは、優先順位（Prioritization）、諸関係（Relationships）、内的動機（Intrinsic Motivation）、モデリング（Modeling）、エンパワーメント教育（Empowerment）です。

今回のワークショップでは、この5つの原理（頭文字をとってPRIMEと呼ぶ）を概括するだけでなく、特にエンパワーメント教育に焦点を当てて、その具体的教授法を検討します。実践的で効果的な人格教育方法を学びたい方は、ぜひこのワークショップにご参加ください。

（詳細な説明は裏面に続きます）



麗澤大学校舎「あすなろ」

## エンパワーメント教育

バーコビッツ教授は、学校は権威的で階層構造をなす傾向があると指摘しています。学校の中には、児童・生徒のためという名目の下で、教育熱心な教師がすべてを管理するところがあります。このような学校では、児童・生徒は確かに安全で適切に教育されているように見えますが、実は児童・生徒が向学心や自主性の刺激されない状態に置かれている場合が多いのです。もちろん、児童・生徒を基点とし、その興味や関心に焦点を置く学校もあります。ただし、その場合でも多くの教師は、児童・生徒のための教育をしていると思っているにもかかわらず、誤った指導法、つまりパターナリズム(父権主義)や物質的な教育法に頼りすぎているため、児童・生徒の内発的動機を引き出せないでいるとバーコビッツ教授は指摘しています。

民主主義社会で市民教育を進めるには、民主的な手法によって学校が運営されるべきであるという議論があります。例えば、ジョン・デューイ(1859~1952年)は、民主主義のための教育は、民主主義によってなされると論じています。

バーコビッツ教授は、学校教育を改善するには、すべてのレベルでエンパワーメント教育を適切に実施することだと主張しています。すなわち、学校管理者、大人たち、教師、さらに、学校のすべてのステークホルダー、つまり校長・教頭、教師、職員、児童・生徒、保護者、関係するコミュニティの人びとすべてにエンパワーメント教育が適応できれば、最終的に学校生活のすべての側面にポジティブな影響が及ぶのです。つまり、ポジティブなカリキュラム、放課後活動、学校の規律、スポーツ活動などが実現するわけです。

今回のワークショップでバーコビッツ教授は、エンパワーメント教育の効果を示した後、旧態依然とした教育法ではステークホルダーをエンパワーメントできていないことを検証します。そして、エンパワーメントできた実例と、そうできなかった実例を提示し、最後にエンパワーメント教育に関する実習も行います。

---

### 註

#### \*エンパワーメント

個人や集団が自分の人生の主人公となれるように力をつけて、自分自身の生活や環境をよりコントロールできるようにしていくこと。

#### \*パターナリズム

父親の子どもに対する保護と干渉と統制関係のうちに認められる支配パターンのような関係。

#### \*ステークホルダー

企業の経営行動などに対して直接・間接的に利害が生じる関係者(利害関係者)のことをいう。具体的には、株主、消費者(顧客)、従業員、得意先、地域社会などが挙げられる。学校でも企業と同じような関係者があると考えられる。